



完璧な大人なんていない

親は子どもに対して完璧な大人である必要はありません。苦手なものは苦手だと言っていいと思いますし、わからないものはわからないとして構わないと思います。

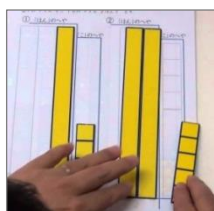
私は担任をすると、最初の授業参観では、実験結果を予想する理科の授業をし、ワザと親が間違えそうな問題を出すことがよくありました。予想には親にも手を挙げてもらいました。(いやな担任ですよ…) 案の定、多くの親が違えて、とても盛り上がった授業になりました。そうです、大人も間違えるのです。これをきっかけに、子どもたちには、「大人だって間違えるのだから、子どものみんなはどんどん間違えていいんだ」「間違えを恐れずにどんどん発言しようぜ」と伝え、どんな発言でも認め合える学級をつくっていきました。

子どもが算数の宿題がわからないので教えてほしいと言ってきたらどう答えますか。

- 親①「自分で考えることが大事だよ。」
- 親②「わからないことは、明日、先生に教えてもらいなさい。」
- 親③「そんな問題も分からないの。」
- 親④「私も算数は苦手だったんだよ。一緒に考えようか。」



このほかにもいろんな答え方があると思いますが、この場合、③以外は正解だと思います。中でも、子どもがいちばん安心するのは、④の親だと思います。「そうかあ、お父さん(お母さん)も苦手だったんだ」ということで、子どもの気持ちがとても楽になると思うのです。(苦手でないものをわざと苦手と言う必要もありませんが…)



我が家の長男が小学校1年生のときに、居間で算数の宿題をやっていた姿を覚えています。本校の1年生は算数用のブロックをもっていますが、当時は磁石で貼りつくようになっているタイルをもっていました。小1ですから、たし算やひき算の簡単な計算問題の宿題だと思いますが、計算がわからなくなると、長男はそのタイルを取り出して、タイルを動かして問題を解いていました。その姿に、担任の先生がいい指導をしてくれているなあと感じたのでした。

3年生以上の家庭では、親子で過ごすことの多い居間などに国語辞典を置いておくことをお勧めします。親子でテレビを見ていて、わからない言葉が出てきたときや、子どもが「〇〇って何？」と聞いてきたとき、「私も分からないな」と、すぐに一緒に国語辞典をひいて、または、子どもにひかせて、その言葉の意味を親子で見してみるなどできたらいいなあとと思います。図鑑や百科事典などもあれば、理科や地理、歴史といった内容も一緒に見ることもできます。パソコンやスマホで検索して一緒に見るなどの方法もあります。親子で過ごしているときに、こんな親子の関係があるとステキだなあとと思います。

※スマホはこういう使い方をすると、とても有効なツールです。

※職業柄、私は何種類かの国語辞典をもていましたが、息子2人に全部取られてしまいました。

親が子どもの前で、見栄を張ったり、知ったかぶりをしたりする必要はありません。完璧な大人などいません。カッコワルイ面も子どもに見せたり、わからないことはわからないと言ったり、親の苦手なことを子どもが知っていたり…、そういう中で、子どもも安心して、自分を解放でき、親に悩みを話すことができ、隠しごとなどしない子どもに成長するのだと思います。このことは、教師にもそっくりそのまま同じことがいえます。

6年生を送る会

21日（金）学校開放日に6年生を送る会を行いました。1年間全校のリーダーとしてがんばってきてくれた6年生に感謝の気持ちを表そうと、新年度の児童会本部が企画・提案し、1～5年生で準備を分担し、その児童会本部と5年生が中心となって取り組んできました。

5年生にとっては、初めて全校を動かす大きな取り組みでした。そこは、お手本となってきてくれた6年生がいますので、見習って、さらに、5年生らしさも取り入れ、昨年までの6年生を送る会を進化させた会になりました。6年生のやさしさと、1～5年生の6年生への感謝や信頼が合わさって、とても、ほのぼのとした「ほっこり」した雰囲気の家となりました。



一人一人を紹介しながら6年生を迎えて



6年生が数人ずつ様々なゲームに挑戦して



挑戦した6年生の中で誰が1番になるか考えて



感謝の気持ちを込めたプレゼントを渡しました。



6年生からのお礼の合唱を聞き



1～5年生全員で6年生を見送りました。